

中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成25年10月23日(水)

研究課題	タケ資源の有効利用に関する研究	
研究期間	平成24年度～26年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	3.8
	研究内容の妥当性	3.8
	目的達成の可能性	3.4
	期待される研究成果	3.4
	研究継続の必要性	3.4
	総合評点	3.6
<p>用途や需要の減少等に伴う放置竹林の増大は、造林地、畑等への浸食や民家、道路等への被害等と社会問題となっている。本研究は、新たな竹資源の有効利用法として、キノコ栽培の菌床培地や農畜産物の飼・肥料の開発を目指すものであり、このような試みは評価する。</p> <p>竹チップの活用としては、キノコ栽培についてクロアワビタケ等で成長を促進する効果が認められており、また、堆肥の水分調整剤としても良好なデータを得られていることから、実用化に向けての期待が持てる。</p> <p>一方、竹粉末の飼料への活用としては、現在のところ優位性は認められず、給与して問題ない程度にとどまっている。今後、成長の促進効果があるといったポジティブな実証を行っていく必要がある。</p> <p>また、「豚の分娩時に乾燥竹粉末を添加すると子豚の生存率が向上する傾向にある」など、「傾向にある」といった表現が多く見受けられるが、客観的な統計学的データ分析に基づく説明が求められる。</p> <p>今後、当初設定した研究範囲の中で、竹に含まれている成長を促進する成分の分析など理論的な部分についても補強することにより、研究内容をさらに発展させていってほしい。</p>		